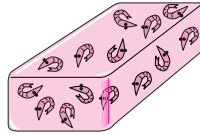


大知氏の基本ブレンドパターン（一日分）



チヌパワー
ムギ
2袋

+



オキアミ
3kg

私が得意としている「遠投浮かせ釣法」は、読んで字のごとく、遠いポイントでチヌを浮かせて釣るといったもの。まとまりがよいので操作性が抜群によく、適度な自重もあって遠投には最適な「チヌパワームギ」がひとつあれば、その使い方次第ですべてのシーズン、釣況に対応できるので、私は特に季節に合わせた配合エサのブレンドパターンということは考えていません。もちろん「チヌパワームギ」には、チヌが好む大粒のムギやコーン、さなぎの濃縮エキス「チヌにこれだ!!」なども配合されているので、集魚力なども申し分なし。よほどチヌの活性が低いとき以外は、単品で充分な働きをしてくれるのです。

ですので、ここではシーズンごとのブレンドパターンではなく、遠投浮かせ釣法について話を進めてみようと思います。

■ **なぜ「遠投浮かせ釣法」なのか？**

それでは、私が遠投浮かせ釣法をするようになった理由から説明していきましょう。

まず挙げられるのが、攻めるポイントが広くなるということです。私の場合、単純に遠投といっても飛距離が40〜50mにも及ぶ超遠投となります。そのため、普通の釣りでは遠すぎて攻められないポイント、他の釣り人によって釣り荒れしていない場所を攻略することができのです。

また、沖にいるチヌは、警戒心が薄いと一つのも理由のひとつです。チヌは海面に映った人影におびえ、姿を隠してしまうような魚。だから、



遠投浮かせ釣法をマスターすれば、あらゆる状況に対応できると大知氏はいいます。



大知 昭 おおち あきら

1950年生まれ、広島県大竹市在住。98東レカップTHEチヌ釣り選手権優勝、2001年マルキユーカップ全日本チヌ釣り選手権大会優勝、2003シマノ鱒海カップ優勝などの戦歴をもつ。

必読！ 「遠投浮かせ釣法」

数々のトーナメントを制してきた、根っからの勝負師である大知昭氏。その氏の釣りを支えるのが「遠投浮かせ釣法」です。ここでは、この釣法を実現するためのテクニックを解説していただきました。

大知氏は、釣行前日に配合エサとオキアミを混ぜ合わせます。



魚から距離をおき、安心してエサを食わせようというわけですね。また、沖で浮かせたチヌは、競ってエサを食うようになります。

ほかに、エサ取りはあまり沖に出ていかないというの、遠投することの利点です。エサ取りのいないところを狙うんですから、そのメリットは明らかですよ。また、魚を掛けたのち、確実にゲットできるのもいいところ。手前でチヌを釣った場合はシモリや藻に邪魔されて取り込みが難しいものですが、沖で掛けた場合は、障害物のないところで浮かせてしまい、あとはそこから寄せてくれればいいわけですから。

さて、遠投できるということは、より遠くを攻められるだけではありません。勢いのある潮が、横方向に流れているといったときにも重要なのです。このとき、普通に釣り座から正面を狙った場合だと、たとえばポイントが釣り座から70mも離れてしまつたとしても、こうなれば手返しは悪くなりまじ、仕掛けの操作も難しくなつてきます。ですが40mほど潮上を狙えば、潮下30mぐらいのところを釣ることになるのです。遠投できるということは、前方向だけではなく横方向にも効果が生まれるということ覚えておいてください。

■ 準備は前日から

では、ここからはオキアミと配合エサを混ぜるにあたっての、具体的な説明をしていきましょう。まず混ぜるタイミングですが、私は釣行前日の夕方に行なうようにしています。つまり、一泊させるんですね。こうすることで配合エサがしっかりと水分を吸い込み、馴染みのよいエサに仕上がります。また、「チヌバウムギ」に含まれている成分が、オキアミを締めつけてくれます。

これはどういふことかという、私は投入時の空気抵抗を減らすために、オキアミは1/3、1/2にスライスするんですね。ですからオキアミは身が縮まっていなくて、ヒシヤクのカップの中にくっつく押し込んだとき、形が崩れてしまつたんですよ。なお、オキアミをスライスする理由は、着水してからのバラケ性と、オキアミの破片が増えることで、付けエサをエサ取りに取られにくくするという意味もあります。さらに利点としては、オキアミに配合エサがよく絡むということです。これでは、着水後、オキアミと配合エサが分離せず、同時に沈んでいくくれるのです。釣りとは直接関係ないんですが、前日に混ぜるイコール釣り場でゴミを出さないということにもつながります。

配合エサの空袋などは、いくら気を付けていても強風などで飛ばされてしまうことがあるもの。調整用として釣りに場には未開封の配合エサを持ち込むことはありますが、なるべくならゴミが出てしまう要素は排除しておいたほうがいいと、私は思います。

ほかのアドバースとしては、「チヌバウムギ」とオキアミをただ混ぜるだけではなく、水で調整しながらしっかりと練り込んでやるのが大切。こうすることでネバリが生まれ、より遠投に適した仕上がりになるのです。

■ あらゆるシーンに対応

ここまでで、遠投浮かせ釣法のメリットとその準備までは理解していただけたと思います。ですのでここからは、この釣法があらゆるシーンに対応できるというこの理由を紹介していきます。

まず、遠投できるということは、当然近いところも攻められるということ。ですので、磯際にしかポイントがないといった状況にも対応は可能です。また、季節によって釣るタナは変わりますが、これも打ち方次第で解決できます。たとえば近くの浅いところを釣る場合は、ヒシヤクのカップでオキアミと配合エサをすくうようにやさしく入

慣れないうちは、遠投は肘や肩に負担がかかります。
 まずは近距離から練習していきましょう。



れてやる。こうすれば水中ですぐにバラケるので、浅ダナの攻略はできませんよね。深ダナを狙う場合は、逆にヒシヤクのカップにきつく詰め込んでやればよい。バツカンの壁に押しつけるようにしてね。そうすれば固まりのまま沈んでいって、深いところで効いてくれます。

沖の深いところを釣る場合も同様で、遠くまで飛ぶようにヒシヤクのカップに押し込み、そのまま投げればよい。硬い固まりのまま着水し、そのまま沈下していきます。

難しいのは沖の浅いところを釣る場合

ですが、これも問題はありません。遠投するためにヒシヤクのカップにきつく詰め込みはしますが、それを投げるときに、ヒシヤクを「振り止める」ようにしてやればよいのです。これで、空中で3つから4つぐらいの細かな破片になって落下するので、表層から効果を出せるわけです。具体例を挙げて解説すると、浅ダナを釣る春は、ポイントが遠ければ遠投するために、配合エサとオキアミをヒシヤクのカップにギュッと詰め込む。ですが、浅いタナから効かせるために、空中で分解するように振り止めて投げる、というわけ

です。

なお、この投入は、どんなときでもリズムカルに続けて行なうことが大切。仕掛け投入前に3杯、投入後に3杯、仕掛けが馴染んだ頃に3杯といった具合に間断なく打つことでチヌを浮かせ、底に戻らせないようにするのです。

ここで少し、エサ取りについて話をしたいと思います。よく「エサの打ち分けによる、エサ取りと本命の分断」という言葉を耳にしますが、私は特にそういったことを考える必要はないと思うんです。なぜかという、たとえ遠投するといっても、一投ごとのすべが狙った投入点に入るわけではないですよ。オキアミや配合エサの破片が、多少はパラパラと手前にも落ちるわけです。これらがエサ取り用となるので、わざわざ打ち分ける必要はない、と考えているんですね。そういうことをするよりも、狙ったポイントにどんどんエサを入れる方がいいと思います。

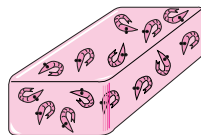
ただ、夏場のエサ取りの多い時期は、手前に落ちたエサを伝って、本命のポイントまで移動してしまう可能性もあります。ですからその点は注意し、オキアミと配合エサが縦ではなく横方向に落ちるように、ヒシヤクで「切る」ような感じで投入してください。そして、足下にはエサ取り足止め用の分を打ってください。

極端に活性が低いときのブレンドパターン（一日分）



チヌパワー
ムギ 2袋

+



オキアミ
3kg

+



イワシパワーチヌ
適量

この時期はエサ取りの多少により、使用量を増減させてください。

エサ取りをかわす、スレていないチヌを狙えるなど、遠投のメリットは多くあります。



■ どうしても活性が
上がらないときは

厳寒期などの水温の低い時期は、どうしてもチヌの活性が上がらないときがあります。そんなときは状況をしながら、「イワシパワーチヌ」を適量プラスしていただく。このエサは、「純正イワシ粉末」やUGF、それに酵母やムギ、粒エサ、カキガラなどの集魚成分が配合された、食い渋り時の特效エサ的な存在。きつと、状況を打破する手助けをしてくれるはずです。

■ 付けエサ

最後に、付けエサの紹介をしておきましょう。

オールシーズン使えるオキアミエサは、「くわせオキアミスーパーハード」か、これに「チヌにこれだ!!」が添加された「くわせオキアミスーパーハードチヌ」を使っています。ともに食いはもちろんエサ持ちが抜群なので、遠投メインの私には最適なんです。また、「くわせオキアミスペシャル」も身がしっかりしており、「ウルトラバイト・アルファ」添加で食い込みもよいので、活躍してくれる付けエサです。

冬以外は、練りエサの「くわせ練りエサ・チヌ」も使います。ニンニクと

アミエビ配合でチヌの食欲を刺激してくれ、エサ取りにも強い。それに練りエサは、型のいいのが出ますしね。遠投には不向きですが、手で揉んでやればネバリが出てきて、ある程度は遠くまで飛ばせるようになります。エサ取りが多いときは大きくハリ付けしたり、攻めるタナに応じて形を変えたりと、状況に合わせた使い方をしてください。

マルキューグッズ はみだし情報・6

パワーヒシャクシリーズ

グリップを回転できる、パワーグリップアジャストシステム(PGAS)を搭載したヒシャク。使い勝手に優れ、遠投派には特にお薦め。ほかに人間工学に基づいたグリップ形状や、抜群の飛びを実現する独自のカップ内側形状など、こだわりがぎっしり。全長約60cmの60タイプと全長約70cmの70遠投スペシャルタイプの2タイプを用意し、それぞれカップの大きさが違う計5アイテムをラインアップしました。

